

SDG s おおたスカイパートナー宣言書

(宛先)大田区長

私たちは、SDG s の内容を理解し、以下のとおり、大田区とともにSDG s の推進に取り組むことを宣言します。

<宣言日>令和8年5月15日

事業者情報					
事業者名	エースコンタクト グランデュオ蒲田店				
代表者 職・氏名	職名	グループリーダー			
	氏名	飯島 那穂			
ホームページ URL (任意)	https://goace.jp/shop/detail/kamata.html				
事業者ロゴ (任意)					
事業者としての 2030 年のあるべき姿					
「視力矯正を提供する会社」から「目の健康と社会課題を解決する会社」へ進化させていく。					
これまでに取り組んでいる・これから取り組みたいSDG s 17のゴール・目標（複数選択可） （これまでに取り組んでいるゴール・目標：○ これから取り組みたいゴール・目標：●）					
 1 貧困をなくそう	 2 飢餓をゼロに	 3 すべての人に健康と福祉を	 4 質の高い教育をみんなに	 5 ジェンダー平等を実現しよう	 6 安全な水とトイレを世界中に
		○		○	
 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	 8 働きがいも経済成長も	 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	 10 人や国の不平等をなくそう	 11 住み続けられるまちづくりを	 12 つくる責任 つかう責任
	○	○			
 13 気候変動に具体的な対策を	 14 海の豊かさを守ろう	 15 陸の豊かさも守ろう	 16 平和と公正をすべての人に	 17 パートナリシップで目標を達成しよう	

目標の達成に向けた取組内容等		
関連するゴールの数字を記入 (複数記入可)	これまでの取組内容	これからの取組内容
12、13	コンタクトレンズ空ケース・ブリスターパックの回収。店舗が「回収拠点」として地域に認知されている。	「コンタクトを買う＝環境に配慮する行動」になっている。サステナビリティイベントを実施し、取り組みの認知度を向上させ、コンタクトレンズの空ケースのごみを減らしていく。
3、10	子ども・高齢者・低所得層への視力サポート。キッズ視力チェックイベントの定常化（地域連携）させ学校・自治体と連携した“視力リテラシー教育”を行う。	「エースコンタクト＝目の健康インフラ」として、地域の方々に思っていただけよう従業員の教育を強化していく。
11	ショッピングモールの中で「イベントをやっている店」として認知いただいている。キッズイベント・SDGs 体験ブースの定期実施していく。地元企業・行政・学校とのコラボ強化している。	コンタクトレンズを買う場所ではなく、地域の方々が集まる場所になるよう引き続き地域の方と繋がるイベントを行っていく。
9	デジタル活用（オンライン接客・Web 購入・SNS）やコンタクトレンズ業界初の定額制システムを採用している。定期フォローの仕組み（リマインド・サポート）を作っている。	販売するだけの店ではなく、自分の目を一番よく理解してくれる店舗作りを行っていく。
5、8	障がい者雇用を推進し、女性活躍や健康経営を通じて従業員の働きやすさと健康を支援している。	女性リーダー・管理職の育成や出産・育児と仕事の両立支援（時短勤務など）を行っていく。多様な働き方の整備し、キャリア形成のサポートをしていく。